

震災 8 銭切手 1 枚貼りの 「第四種 4 倍重量便」使用例

震災 8 銭切手というのは、当時としては使い勝手の悪い切手であつたと思われる。そのためか発行枚数は 9 額面の中で最も少なく、当然ながら現在未済を含めた残存数も少ない。

8 銭切手の使用例として考えられるのは、

1. 外信私製はがきへの 1 枚貼り。元々その用途のために発行された額面切手であるため当然と言える。
2. 外信印刷物（基本 4 銭）の 2 倍重量便 1 枚貼り。希少例。
3. 2 枚貼りの国内第 1 種 3 倍重量書留便。
4. その他、国内便・外信便での混貼り使用。

ところで、右図のフロントカバーは 1 枚貼りでありながら、「第四種 4 倍重量便」という 非常に珍しい使用例になっている。
データは、東京中央／13. 6. 21（ローラー印）。

当時の国内第四種便（印刷物）の基本料金は、30 匁（112.5 g）あたりごとに 2 銭という、相当優遇された料金であつた。その 4 倍ということは、450 g 以内という重量になる。

差出人が三省堂という書店であることから、書籍関連物を送ったものと考えられる。

極めてユニークな使用例と思われる上に、希少な和文ローラー印消しの実通カバーとしては、私はこれまでにこれ 1 通しか確認していない。

（日本郵楽会会員：西川 恵久）

大正四年二月九日私製認可

小包送票甲

大正 年 月 日

配達局名 郵便便切手貼付欄

届ヶ先



第四郵便

東京中央
13

局

島根縣 簸川郡
杵築町
杵築中学校

東京市麹町區太宰町巷丁目番地

株式會社三省堂庶務課

電話半込——七二六三
振替口座東京三一五五五

東京市小石川區戸崎町二番地

株式會社三省堂

(電話小石川一、一六二)假事務所